

## 国産材に関する新聞記事の計量テキスト分析

### Quantitative Text Analysis on Domestic Timber by Newspaper Articles

(東京大学) ○河村奏瑛、井上雅文  
(The University of Tokyo) Soei Kawamura, Masafumi Inoue

#### 【緒言】

国産材の利用拡大施策を検討するには、消費者の国産材に対する意識を把握することが重要である。一般に、消費者意識の把握にはアンケート調査が用いられるが、過去の政策や災害、イベントなど時事的な事柄が消費者意識に与えた影響を捉えることは難しい。ここで、消費者の意識は新聞などマスメディアに影響を受けるため、報道内容と消費者の意識には類似性があることが既往研究で明らかになっている。したがって、新聞記事の中で国産材がどのような文脈で取り上げられてきたかを定量的に分析することで、時事的な事柄が消費者意識に与えた影響を把握できる。本研究では、過去 35 年間に全国紙に掲載された国産材に関する記事を対象に計量テキスト分析を行い、その結果を経時的に比較することで、消費者意識の変化を考察する。

#### 【方法】

1986 年～2020 年に発行された読売新聞および朝日新聞を分析対象とした。見出しまたは本文に「国産材」、「国産木材」、「県産材」、「県産木材」、「地域材」の国産材関連語を含む記事を両紙の電子版から抽出し、KH Coder を用いて計量テキスト分析を行った。

国産材に関する記事傾向の経年変化を分析するため、対象記事を 5 年ごとに区分し、各期間に出現する特徴語を検出した。それら特徴語から、国産材に関する記事の傾向に変化が生じた原因となる事柄を類推し、それによってどのような変化が生じたかをクラスター分析から考察した。

#### 【結果および考察】

表 1 に、見出しまたは本文に国産材関連語を含む記事数を示す。1986 年～1990 年および 1991 年～1995 年の期間には「国産材」、「国産木材」を含む記事が過半を占めていたが、1996 年以降の区間では「県産材」、「県産木材」、「地域材」といった語を含む記事が過半を占めており、両紙を購読する消費者は、「県産材」や「県産木材」として国産材を認知している可能性がある。

表 1. 1986 年～2020 年における国産材関連語の出現記事数の推移

期間(年)	国産材関連語を含む記事数					合計記事数
	「国産材」	「国産木材」	「県産材」	「県産木材」	「地域材」	
1986～1990	87	14	12	1	4	118
1991～1995	104	20	38	18	4	184
1996～2000	315	46	223	49	11	644
2001～2005	488	88	638	205	72	1491
2006～2010	496	109	686	240	49	1580
2011～2015	345	104	749	332	60	1590
2016～2020	259	103	599	458	24	1443

2016 年～2020 年の国産材に関する記事には、他の期間と比較して「五輪」の Jaccard 係数が高く、特徴語として検出された。そこで、東京五輪の開催が決定された 2013 年 9 月以降で「五輪」、「オリンピック」を含み、かつ国産材に関する記事のクラスター分析を行ったところ、「認証」、「管理」、「国際」、「基準」の単語がクラスターを形成しており、これらの単語の頻出度は五輪関連でない記事と比較して有意な差が見られた。したがって、東京五輪によって持続可能な木材利用や森林認証制度に関する報道が増加し、消費者の木材利用に対する意識にこれらの概念が浸透し始めていることが示された。国家的なイベントに紐づけて国産材の利用拡大施策を行うことは、報道を通して消費者意識に強く働きかけ、プロモーションとして有効であることが示唆された。

#### 【文献】

- 1) 樋口耕一：現代における全国紙の内容分析の有効性. 行動計量学 38(1), 1-12(2011)